

板 木

群馬県へき地教育研究資料第74集



「現存する板木」 (みなかみ町)

令和8年3月

群馬県教育委員会

群馬県へき地教育研究連盟

群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第74集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和27年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育連盟が発足した年でもあります。今年度で第74集となる「板木」は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であるとともに、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会の開催などの施策を推進しております。

県教育委員会では、「第4期群馬県教育振興基本計画」において、「自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて 一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」を最上位目標とし、さまざまな取組を推進しております。その基盤となる5つの重点政策の1つに「学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進」を掲げ、「地域とともにある学校」・「学校とともにある地域づくり」に向けた取組の充実を目指しております。このような中、県内へき地学校では、小規模校の特性を生かし、児童生徒の主体性を大切にされた教育や、地域との連携を通じて課題解決を図る教育を推進していただいております。また、1人1台端末の活用により、多様な交流が可能となり、情報を共有・可視化することで協働的な学びを推進するなど、へき地学校の教育は一層充実してきています。

今年度の県へき地教育研究大会は、昭和村立大河原小学校を会場に、「主体的・協働的に学び、ふるさとに誇りと愛着をもった、人間性豊かな子どもの育成～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに『生きる力』を伸ばす学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」をテーマに行われました。研究協議では、「主体的・対話的に学び、ふるさとに愛着をもった児童の育成～地域とともにある学校をめざして～」、「自主的、創造的に学び行動する生徒の育成～エージェンシーを発揮できる環境づくりの工夫を通して～」について発表がありました。地域の教育力を生かした特色ある教育活動を通じて、児童生徒が地域との「協働的な学び」を深め、地域社会とのつながりの中で「生きる力」を育成する実践が紹介されました。また、学校公開では、子どもたち一人一人がエージェンシーを発揮して学ぶ姿が見られました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思っております。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第74集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和8年3月

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

「板木」第74集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に

取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

少子化に伴う児童生徒数の減少により学校の統廃合が進んでおり、今年度のへき地学校は昨年度から1校減少し25校となりました。へき地学校に通う児童生徒数も減少傾向にありますが、子供たちは心身ともに健やかに成長し、地域への愛着を深めながら学んでいます。これは、豊かな自然環境や、長年守り継がれてきた地域の伝統・行事を生かし、学校・家庭・地域が一体となって、児童生徒一人一人に寄り添った教育を推進していただいているおかげだと考えております。

将来の予測が困難で価値観の多様化が進む時代を迎え、子供たちの置かれている環境はめまぐるしく変化しております。このような時代においても、これからの社会の創り手となる子供たちが、生まれ育った郷土・群馬に誇りと愛着をもち、学校、家庭、地域における様々な人との関わりの中で培った感性を働かせ、変化や困難にも柔軟に対応し、多様な人々と協働する力や、新たな価値を見いだす力を育ててほしいと願っております。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第74集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つ大変意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

令和8年3月

群馬県へき地教育振興会

会長 星野 已喜雄

「板木」第74集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しまして御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第74集として発刊の運びとなりました。「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されております。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表します。

さて、今年度の群馬県へき地教育研究連盟の主な事業は、群馬県へき地教育研究大会の開催と全国へき地教育研究大会新潟大会への参加でした。まず、10月13日に昭和村立大河原小学校を会場に群馬県へき地教育研究大会が行われ、浅間小学校と上野中学校の実践発表と会場校の学校公開が行われました。11月6日、7日には全国へき地教育研究大会新潟大会が長岡市を中心に開催され、本連盟から校長12名と群馬県教育委員会事務局の5名が参加しました。分散会における実践発表や分科会会場校での公開授業が行われ、参加者それぞれがへき地教育について学びを深めた2日間でした。私自身も、これら二つの事業を通し、へき地教育の奥深さを改めて感じ、へき地教育のよさや強みについて、具体的に理解することができたように思います。

この「板木」には、これら二つの事業や本連盟加盟校の研究実践の内容が掲載されています。ぜひ、へき地校に勤務する教職員の皆様はもちろん、へき地校以外の教職員の皆様にもお読みいただき、地域との連携の工夫や個別最適な学びの支援など、各校の取組に役立てていただけたら幸いです。

また、本連盟では、これらの事業と並行して、令和9年度に開催される関東甲信越へき地教育研究大会群馬大会に向けての準備を行っております。今年度は、実行委員会を組織し、会場や日程等大枠の検討が行われました。来年度は群馬大会に向けた発表校の研究や運営面の準備が本格化する時期となります。統廃合により加盟校が減少している状況ですので、本連盟の事業内容を精選しながら、加盟校同士で協力し合い、群馬大会に向けた研究と運営面での準備に力を注いでいきたいと考えております。

結びになりますが、「板木」第74集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方に御礼を申し上げますとともに、日頃より御指導と御支援をいただいております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様にも深く感謝申し上げます。発刊にあたってのあいさつとさせていただきます。

令和8年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **高橋 祐樹**

も く じ

序 文

序	群馬県教育委員会教育長	平田 郁美
「板木」第74集の刊行に寄せて	群馬県へき地教育振興会長	星野 巳喜雄
「板木」第74集の発刊にあたって	群馬県へき地教育研究連盟理事長	高橋 祐樹

第1部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

沼田市立多那小・中学校長	井口智恵子	1
--------------	-------	---

II へき地の学校経営

〈1〉小学校 孺恋村立東部小学校長	大竹 一夫	2
〈2〉中学校 高山村立高山中学校長	木村 雅士	4

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

上野村立上野小学校長	梯 直人	6
------------	------	---

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校 東吾妻町立坂上小学校長	小林 晃男	8
〈2〉中学校 高崎市立倉渕中学校長	高橋 祐樹	10

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 令和7年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長		12
片品村立片品小学校長	小林 菊江	

II 第74回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要	-----	13
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
片品村立片品小学校長	小林 菊江	
〈2〉 提案要旨		
《小学校班》 長野原町立浅間小学校長	土屋 学	----- 14
《中学校班》 上野村立上野中学校長	今井 啓介	----- 16

III 第74回全国へき地教育研究大会（新潟大会）

〈1〉 概要報告	-----	18
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
片品村立片品小学校校長	小林 菊江	
〈2〉 分散会報告		
沼田市立利根中学校長	岡村 健一	----- 19
〈3〉 分科会報告		
A分科会 片品村立片品小学校長	小林 菊江	----- 21
B分科会 神流町立中里中学校長	茂木 宏隆	----- 21
C分科会 上野村立上野中学校長	今井 啓介	----- 22
D分科会 上野村立上野小学校長	梯 直人	----- 22
E分科会 草津町立草津小学校長	田中 充弘	----- 23
F分科会 中之条町立六合小学校長	奥木 芳明	----- 23
G分科会 嬭恋村立東部小学校長	大竹 一夫	----- 24

《資料》

I 令和7年度へき地学校資料	-----	25
II 令和7年度群馬県へき地教育振興会役員	-----	28
III 令和7年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	29
IV 令和7年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	29
V 令和7年度へき地教育功労者	-----	30

あとがき	-----	31
------	-------	----

第 1 部

へ き 地 教 育 の 振 興



群馬県へき地教育研究大会 開会行事



群馬県へき地教育研究大会 研究協議会

I 変貌するへき地の学校

沼田市立多那小・中学校の閉校

沼田市立多那小・中学校長 井口 智恵子

1 多那小・中学校の概要

多那小・中学校は、明治 16 年に円覚寺（北勢多郡多那村）に笠科小として開校したことに始まった。昭和 22 年に赤城根村立多那小・中学校となり、県内でも珍しい一つの学び舎に、小学校と中学校が併設されている学校である。

本校は、昭和 22 年から 3 年連続の大型台風の影響により、校舎や教員住宅が流される大きな被害に見舞われた。しかし、「子供たちの学びを止めない」という地域の思いにより、現在の場所に校舎が移転された。戦後間もない時代、校舎を建てる資材も人手もなく、農閑期に住民総出で校舎移転が行われた。小さい子供たちも、重い荷物を担ぎ、何度も山道を往復する過酷な作業にも関わらず、誰一人として不平を口にしなかった。その様子から、新校舎での学びをどれほど楽しみにしていたかが伝わってくる。現在は、小学校が昭和 44 年に建造された鉄筋 2 階建ての校舎、中学校が平成 22 年に建造された鉄骨平屋建ての校舎である。今年度は、小学校 24 名、中学校 14 名、全校で 38 名と少人数ではあるが、元気な声と笑顔が溢れる学校であり、閉校を迎える今日まで、多くの子供たちがこの学び舎で楽しい時間を過ごした。卒業児童・生徒数は、今年度の卒業児童・生徒を加え、小学校 1299 名・中学校 1197 名となった。



多那小・中学校 校舎全景



<スローガン>

『最後の運動会 最高に楽しむ多那校魂』

2 多那小・中学校での取り組み

本校では、「多那を愛し、未来をきりひらく子」を教育目標とし、「つなぐ（人・もの・こと）わくわくがいっぱい多那小・中学校」をスローガンに掲げ、体験活動を工夫し、児童生徒の主体的・探究的な学びを推進してきた。少人数ならではのよさを生かし、「地域の人」と「もの」と共に学ぶことを大切に取組んだ。

中学校では、「多那校プロジェクト」として、地域の人への感謝を表すプロジェクト（中 1 ポトフでおもてなし、中 2 地域と学校のお揃い T シャツ・星空鑑賞会、中 3 地域と一緒に運動会・豚汁でおもてなし学校公開）を実践した。小学校では、多那地区の資源をこれからも教材として残すための提案（小 3・4「学校林を存続させる提案」、小 2「多那を知るウォークラリー」）に取り組んだ。さらに、児童会・生徒会活動やなかよし集会等の活動を通して、児童の自主性や創意工夫を育むとともに、異学年交流による豊かな心の育成を図った。



『多那校プロジェクト』地域の方に向けたプレゼン



校舎前の校歌碑『あゝ天広く』

3 閉校にあたって

新年度からは、新たな学びの場が白沢へと変わる。しかし、学びの場が変わるだけで、多那地区から子供たちが居なくなるわけではない。今後も、多那地区の素材や人材を生かすことで教育課程の充実が図れると思う。そのために、地域と学校が協働しながら、子供たちの豊かな学びを保障し、確かな学力と郷土愛を育む教育の実現を目指してほしいと願う。

閉校する多那小・中学校 143 年の歩みを支え続けた方々、地域の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

Ⅱ へき地の学校経営

〈1〉小学校

地域人材を生かした授業づくり

婦恋村立東部小学校長 大竹 一夫

1 学校の概要

本校は、平成25年度に婦恋村立東小学校と婦恋村立鎌原小学校が統合し、13年目を迎えた学校である。春秋キャベツの生産・出荷量日本一の婦恋村の東に位置し、浅間山・草津白根山を中心に創り出された大きな土地のふとこころにあり、豊かな自然に囲まれている。

「明日も通いたくなるあったかい学校」づくりを通して、「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」の調和のとれた人間性を培い、目標をもち、その実現に向けて粘り強く努力する児童の育成を目指している。

○ 県準へき地校 ○ 学級数 9学級 ○ 児童数 126名(世帯数 94) ○ 職員数 21名

2 学校教育目標

「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」の調和のとれた人間性を培い、目標をもち、その実現に向けて粘り強く努力する児童の育成

- よく学ぶ 素直な子(知)
- 心やさしい 親切な子(徳)
- 笑顔素敵な 元気な子(体)

3 学校経営方針

- (1)分かる授業・楽しい授業【学力向上対策】
- (2)認め合い・助け合える仲間【いじめ防止対策】
- (3)健康な生活・運動習慣【体力向上対策】

4 実践の概要

(1) 地域学習の実施

江戸時代中期の天明3年(1783年)、浅間山の噴火に伴う溶岩が土石流となって本学区の鎌原地区(旧鎌原村)を襲い、人口570人の村は深さ5～6mの土石流で覆われ、477人が巻き込まれて亡くなった。右の写真は、噴火前から残る唯一の建物である鎌原観音堂について説明を受けている様子である。

この他にも、浅間山溶岩樹形やたまだれの滝、熊野神社など、婦恋村には歴史・文化・自然と誇るべきものが数多くある。

生まれ育った婦恋村のよさを肌で感じてもらうために、浅間山北麓ジオパークの浅間山ジオガイドの方に協力いただき、現地で婦恋村の歴史や文化に触れながら学習を進めている。



鎌原観音堂



鎌原観音堂

(2) キャベツ農家とのふれあい

孺恋村は、夏秋キャベツの主産地で、半世紀以上に渡り日本一の生産量を誇っている。浅間山などの火山から噴出した火山灰が長い時間をかけて堆積した「黒ボク土」を含む土壌は、栄養豊かで排水性にも優れている。また、標高700～1400mの高原地帯に位置し、6月から9月の気温が15～20℃と冷涼で、朝晩の寒暖差が大きく、高原の朝露を受けるため、葉が柔らかく甘みのあるみずみずしいキャベツが育つ。

このように、地元の人々が手間をかけて大事に育てている日本一のキャベツについて、1学期には、紙芝居を用いて孺恋村でキャベツ栽培が盛んな理由や、植え付けから収穫までの流れなどを学ぶ学習を行った。2学期には、実際にキャベツ畑を訪れ、収穫から箱詰め、運搬までの作業の体験を行いながら、農家の方々の苦労や工夫について話を聞き、理解を深めている。

(3) 千代田区との交流

孺恋村では、千代田区の小学校と交流を行っている。お互いの学校や地域の紹介を通して地域の違いについて学んだり、じゃがいも掘りなどの活動を通して交流を深めたりしている。

じゃがいもは、地域の「おむすびの会」の皆さんが、種いも植えから収穫までのすべての作業を行ってくださっている。この行事は、地域の方々の協力なしには成り立たない、大切な取組となっている。

(4) 冬季のスケート授業の実施

孺恋村からは、これまでに6名のオリンピック選手と2名のメダリストが誕生している。

本校では、冬季の体育の授業でスピードスケートを取り入れており、孺恋高校のスケートリンクを使用して授業を行っている。

講師としてお世話になっているのは、村のボランティア講師の皆さんである。中には、全国優勝や全国入賞の経験をもつ方々も多く、その顔ぶれは実に心強いものである。優れた指導者から直接指導を受ける子供たちは、充実した表情で練習に励んでいる。

5 おわりに

本校では、豊かな自然と地域の人々に支えられながら、子供たちがふるさとを愛し、たくましく生きる力を育む教育を推進している。四季折々に変化する美しい自然環境の中で、子供たちは植物や動物の命の営みにふれ、自然の大切さや命の尊さを実感している。また、地域に住む多くの方々にご協力をいただきながら、地域の歴史や文化、産業に直接触れる体験的な学習を通して、自分たちの暮らす孺恋村のすばらしさを肌で感じ取り、郷土に誇りと愛着をもつ心を育てている。

これからも「明日も通いたくなるあったかい学校」を目指し、一人一人の児童が笑顔で輝きながら成長していけるよう、子供たちの健やかな成長を温かく見守り、教職員・保護者・地域が一体となって教育活動をいっそう充実させていきたい。



キャベツ紙芝居



キャベツの収穫



千代田区交流 じゃがいも掘り



スケート授業

〈2〉 中学校

地域学校協働本部と協力した学校経営

高山村立高山中学校長 木村 雅士

1 学校の概要

高山村は吾妻郡の東端に位置し、東は沼田市、西は中之条町、南は渋川市、北はみなかみ町に接している。また、子持山・小野上山など、緑豊かな山々に囲まれた高原地帯で、山麓にはぐんま天文台・北毛青少年自然の家などの県施設やロックハート城・キャンプ場・温泉付きの道の駅などが点在しており、訪れる人を和ませてくれる村である。

本校は、生徒数 72 名、5 学級（普通 3、特支 2）のへき地県準の小規模校である。標高 550m で村の中心に位置しており、広大な緑あふれる敷地内で生き生きと生徒たちが活動している。また、高山村教育行政方針である「明るく・かしこく・たくましく」のもと、こども園・小学校・中学校の一貫教育を進めている。また、英語教育の推進として英語検定の支援や 2 年生を対象に希望者全員がオーストラリアへの海外派遣事業に参加できるなど、教育に熱心な村である。さらに、令和 3 年よりコミュニティ・スクールとして、地域との連携を通して地域の教育力を学校に反映している。

2 学校教育目標および学校経営方針

「自ら学び、心豊かで健やかな生徒の育成」

スローガン「創造 団結 挑戦」

- (1) 「学校は生徒が主人公である」との立場で教育活動を展開する。
- (2) 「3つの感動」を柱に教育活動を展開する。
 - ・授業で「わかった」「納得した」「できた」という感動
 - ・集団活動での仲間と「心をひとつ」にした感動
 - ・体験活動で地域の方、専門家と触れ合った感動
- (3) スローガンを意識し、自己の可能性を追求する教育活動を展開する。



【校庭からの校舎の様子】

3 実践の概要

本村では、令和 3 年に設置された学校運営協議会とともに、地域学校協働本部（以下協働本部）が設置された。協働本部には、地域学校協働活動推進員（以下推進員）が 3 名いる。地域学校協働活動（以下協働活動）として学校での授業や行事への講師等の派遣による協力、学校と連携した学校外での活動、中学生による地域でのボランティア活動を行っている。以下は、それぞれの活動の様子である。

(1) 地域から学校へ

学校が講師を協働本部に依頼する場合は、推進員に講師を依頼する。推進員は、学校と日程等打合せをして講師選定をしてくれる。教師では補いきれない専門知識をもった方の協力は生徒の興味・関心を高めている。以下は、本校が講師を依頼した 1 年間の協働活動の一覧である。




実施月	行事名	学年	来校団体、依頼先	備考
6 月	家庭科ゆかた着付け体験	1 年生	一般	講師 6 名
7 月	総合学習登山	1 年生	一般	ガイド 3 名
10 月	職場体験	2 年生	各事業所	15 か所
10 月	校内合唱コンクール	全校	村コーラスグループ	審査員 3 名

1月	書初め大会	全校	村書道部	講師7名
2月	家庭科調理実習	2年生	村食改推	講師6名

(2) 学校から地域へ

令和4年から、協働活動として、中学生が地域のボランティアに参加することで地域社会に貢献し、地域の方と交流することを目指し、地域でボランティア活動が続いている。

以下に、ボランティア活動実施の流れを紹介する。

地域学校協働支援員	中学校・中学生	受け入れ事業所・施設
①ボランティア受け入れ先を募集、決定、依頼、活動内容の確認。		②活動内容の確認、日時、人数、内容を伝える。
③中学校へ募集案内の作成、掲示。	④中学校は参加用紙の掲示場所を提供。	 <p>【地域のお祭りで会場設営をボランティアする様子】</p>
	⑤中学生は、参加申込みを学校へ提出。	
⑥活動内容を参加申し込みした生徒に送付。		
⑦参加生徒名簿、ボランティア活動証明書を各事業所、施設に送付。		
	⑧中学生はボランティアに参加。活動証明書を受け取る。	⑨活動証明書に必要事項を記入し、生徒へ渡す。
	⑩中学生は活動証明書を中学校に提出。	
		⑪実施してみたの気づきを報告する。

令和6年度は、約40か所でのボランティアに、のべ約120名が参加した。

学校が主導ではなく、協働本部が主導してボランティアを実施したことで、中学生は自主的にボランティアに参加することができた。また、地域の方から賞賛をいただき、中学生も地域に貢献した満足感を得ることができた。ボランティアは、休日や長期休業日に行われることが多く部活動との日程調整が課題として残るが、中学生の活躍の場として今後も続けていきたい。

4 おわりに

本校の特色として、地域の方が学校に協力するのみでなく、中学生が地域のボランティアとして地域に協力することがあげられる。学校も地域の力を必要としている一方で、地域も中学生の力を必要としている。

人口減少により、学校も地域もwin-winの関係になる取り組みとして今後も地域の学校として地域と連携した学校経営を推進していく。



【老人ホームの納涼祭でボランティアする様子】

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分で考えて 自分で決めて 自分で動き出す力を育てる学習

～「自分から」を目指した単元内自由進度学習（マイプラン学習）へのチャレンジ～

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 学校の概要

本校は、群馬県の最南端に位置する群馬県で最も人口が少ない上野村にある小学校である。1小1中の村であり、令和7年度の児童数は50名である。この内、開園34年目を迎える山村留学生が9名在籍している。本校では核となる言葉を「自分から」と定め、学校の全ての教育活動を使って、児童が持っている「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す力」を育てることを目指している。特に今年度は、授業を通して「自分で考えて自分で決めて自分で動き出す力」を高めていく方法を試行錯誤しながら実践を続けている。



2 主題設定の理由

放課後の図書館で、何度もため息をつきながら宿題に取り組む児童がいた。その子に「その問題、分かる？」と尋ねると「分かります」との返事。「分かるならやらなくていいと思うよ」と返したが、この「言われたからやる」という場面は学校生活の中に思いのほか多く、子供たちが生きていくこれからの社会を考えると、言われたことだからやるだけでなく、それ以上に大切になる力があると感じた。その力を本校では、「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す力」と捉え、核となる言葉を「自分から」と決めて取り組んでいる。生活の中で身に付けてきた力も、認知の特性も、理解の深さや速さも違う子供たちに、我々教師が全員同一の宿題や一斉授業だけをベースに向き合うのではなく、学ぼうとすればいくらでも自分から学んでいける環境にある今の時代、学校での学びの中にこそ、「自分から」を取り入れたいと思った。そこには、自分の力で学習を進めていける自信や自分のペースで学んでいける安心感、仲間と考え合う価値など、自分から学ぶことができる楽しさ子供自身が実感できる場があると考え、本主題を設定した。

3 学習指導改善に向けた取組

(1) 家庭学習の在り方、「勉強する」を見直す

教師が与える宿題だけではなく、「自分で決める宿題」を取り入れていくことを職員と子供たちとの話し合いを重ね実施した。また、「勉強する」ということは、①分からないことを分かるようにしていくこと、②できないことをできるようにしていくこと、③何かを追究して興味を広げていくこと、④失敗を繰り返しながら試してみることに、と教師と子供で一緒に捉え直した。



職員と子供と一緒に考える「宿題会議」
自分たちの考えを他の班へ発表

(2) 先進校の取組から学ぶ

初めは、子供が少しでも自分から学びやすいようにと、単元計画を教室に貼り、次の時間に何を学ぶのか、単元が終わるまでに何ができるようになればよいのかが児童に分かるようにしたり、自分のペースで進めていく時間を設けたりした。そのような試行錯誤の中で、「単元内自由進度学習」という学習方法を知り、職員で手分けをして愛知県の緒川小学校、山吹小学校、山形県の天童中部小学校、長野県の上諏訪小学校、石川県の庄小学校などに視察へ出かけ取組を学んできた。先進校視察は、本校が目指す「自分から」の力を身に付ける授業を形作っていく上で大きな力になると感じた。

(3) 単元内自由進度学習（マイプラン学習）へのチャレンジ

「まずは、やってみよう、大人もチャレンジ」との思いで、単元内自由進度学習を、個別最適な学びを実現する手段の一つ、「自分から」という力を育てる手段の一つと位置付け、チャレンジしてみたい教員からスタートを切った。主な準備と取組は、以下のとおりである。

①学び方を学ぶ（R5年度2学期からの単元内自由進度学習実施に向けて）

- ・1学期に、学び方を学ぶ期間として教科書やノート、計算ドリル、タブレットドリル、インターネット、ロイロノートなどを、どのように使うことが効果的なのかを一斉授業の中で実践を通して児童へ経験を積ませた。また、タブレットから児童が自由にプリントアウトできる環境や、問題集などを自分でコピーできる環境を整えた。

②マイプラン学習の説明（R7年度2学期には、6年生から下級生へ説明）

- ・教科書で学ぶ、ドリルやワークで学ぶ、図鑑や参考書で学ぶ、タブレットで学ぶ、友達と学ぶ、先生と学ぶ、自分でプリントを印刷して学ぶ、先生が用意したプリントで学ぶなど、自分に合った学び方を自分で選んで学びを進める。
- ・1人で学ぶ、2人で学ぶ、3人で学ぶ・・・誰と学ぶか、行き詰まった時に誰に聞か、どのように調べるか、それも自分で決めて進んでいく。

③先生たちの思いを伝える

- ・自分から学ぶ力を身に付けてほしい。「教わる勉強」ではなく、「自分から学ぶ勉強」へ。
- ・「分かる」だけでなく、自分で計画を立てたり、課題を決めたりできるようになってほしい。
- ・自分で学んでいける力を持っていることに気付いてほしい。
- ・試行錯誤や考えを試していく楽しさ、粘り強く目標を成し遂げる喜びを味わってほしい。
- ・失敗や苦勞の先にあるできる喜び、失敗や苦勞は乗り越えていけることを知ってほしい。
- ・学び方は一つではないことを実感してほしい。

④単元計画表等の掲示、学習環境の整備

この単元で何を学ぶか、何ができるようになればよいか、時間数、学習内容、学習形態（一斉・個別）など、一単元分の情報を最初に全て示す。教師が示したこの計画表を見て、児童は、誰と学ぶか、どのように学ぶか、どこで

学ぶかなどを自分で決めて学習を進めていく。教室内外には、学習のヒントになるQRコードやプリント、本、自由にコピーできる問題集、試したくなる学習の場などが用意されている。必要な資料など、児童がタブレットから自由に印刷できる環境も整えた。

単元計画表(場合の数) 全学年で「テストはみんぱく」の役割	目標・題や表を使って、場合の数(項数)を整理することができる。	学習形態	教科書	ドリル
1	場合の数の問題を解くことができるように、自分で整理する力を身に付けよう。 (ワークブックを準備しよう)	みんぱく、この単元は得意な単元です。	142	24
2	全学年が一斉学習して行う単元の数の数	4人1組で問題を整理して学びます。授業と自習の両方で学習を進められます。	142	34
3	同じことを繰り返す場合の数	コインを3枚投げます。このとき、おとては、最も多い回数があります。	142	34
4	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
5	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
6	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
7	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
8	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
9	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
10	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
11	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
12	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
13	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
14	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
15	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
16	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
17	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
18	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
19	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25
20	場合の数(組み合わせ)	みんぱく、この単元は得意な単元です。この単元は他の単元と比べて、授業と自習の両方で学習を進められます。	142	25

単元計画表(6年算数)



3年生授業風景

4 成果と今後の課題

(1) 成果

昨年度、4年生以上の全児童29名中25名が、マイプラン学習が好きと回答した。その理由は、「自分でやることを決めることができるから、自分で好きなだけ進められるし分からないところを遠慮なく聞けるから、一斉授業は同じ子しか意見を言わないから、分からないところに時間をかけられるから、授業で習わない範囲も調べられるから、一斉だと分からないところが分からないまま終わって先に行ってしまうから」であった。授業中の児童の姿や今年度の全国学調質問紙の回答からも、自分から学ぶことの楽しさを児童自身が感じていることが確実に見える。また、その児童の姿から、今年度は全ての学年でマイプラン学習実施へ向けて職員が動いている。

(2) 課題

研修や日常の会話など職員同士の話し合いと実践を通して、本校に最適なマイプラン学習へと質を高めていきたい。

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

体験を通して共感的な人間関係を育む生徒指導

東吾妻町立坂上小学校長 小林 晃男

1 地域・学校の概要

本校は吾妻郡の中央に位置する東吾妻町の南西部に位置し、周囲を山々に囲まれた自然豊かな環境にある。八ッ場ダム completionにより長野原町に抜けるトンネルができ、高崎方面からの交通量が増えたが、少子高齢化が急速に進む過疎地域である。校区は東の榛名山の中腹から、西は長野原町と接する浅間隠し山の麓までと広く、児童のほとんどがスクールバスで数十分かけて通学している。

今年度の児童数は33名で、複式学級を有するへき地の小規模校である。幼稚園と隣接し、日常的に行き来しやすい環境である。児童は素直でまじめであり、落ち着いた雰囲気の中で仲良く学校生活を送っている。ただし、限られた人数の中で仲良くすることを優先し、自分を抑えながら生活している子供たちである。

保護者は学校に対して協力的であり、PTA活動への参加の様子からも学校教育に対する関心の高さがうかがえる。

2 生徒指導の方針及び努力点

○一人一人の実態に即して、人間らしい生き方を営むことができるよう指導・支援する

○生活上・発達上の諸問題を適切に解決すると同時に自己指導能力を育成する

指導方針

- ・児童同士や児童と教員間の信頼関係を築き、適切な指導、効果的な指導の基盤とする。
- ・個々の実態（個性や人間関係、家庭環境等）を踏まえ、よりよい言動を自己選択・実行できるよう、指導・支援する。
- ・教育活動全般において、師弟同行の姿勢で人権尊重の精神を涵養する。

努力点（具体目標）

- ・特別活動を中心に、自分らしい言動と責任ある行動がとれる児童を育成する。
- ・多様性を認め、他人に対する思いやりの心を育成する。
- ・早期発見、事実確認、解決に向けた組織的な対応、解消後の見守りを徹底する。

3 実践の概要

(1) 児童会活動

小規模校であることよさを生かし、異年齢集団の中で自分らしい言動や思いやりのある態度、進んで協力する姿勢を育めるようにしている。

① 異年齢集団活動

- ・団遊び：団対抗の全校遊び集会を実施。
- ・さつまいも集会：団で協力して苗植えと
いも掘りに取り組む。

- ##### ② 誕生日集会・・・毎月、誕生日を迎えた児童、職員を歌でお祝いし、本人は将来の夢などを発表する。



③読み聞かせ・・・4、5、6年生が下学年に読み聞かせを学期毎に実施。読む本は相手方の学年に合わせて読み手が選択している。

④委員会活動・・・4年生以上が3つの委員会に分かれみんなが学校生活をより楽しく送れるよう、また、生活しやすくなるよう工夫して活動に取り組んでいる。



(2) 異年齢清掃活動

運動会だけでなく、日頃から異学年の児童と接し、協力しながら生活できるように清掃活動も異学年で実施している。大変な作業は上級生が率先して行うことが当たり前となっており、一人も手を抜かず黙々と清掃に取り組む姿が見られている。

また、給食はランチルームで、一緒に食べているが33人を清掃時に分ける余裕がないため、ランチルームは清掃時間とは別に毎日、全員できれいにしている。できることを探し、声をかけ合いながら作業に取り組む姿は、良き伝統となっている。



(3) いじめ防止活動

①いじめ防止集会

- ・5月：「いじめ防止月間」とし、生活目標に組み入れて全校で確認。翌月に振り返りを行い課題点の解決に向けて継続して取り組む。
- ・12月：「町のいじめ防止会議」の内容を全校で確認したり、人権週間の振り返りを行ったりして、いじめ防止に対する意識を継続する。

②人権週間・・・校長講話や人権教室後の人権集会で、全員が人権テーマに沿った自分の宣言を發表し、意識しながら生活する。人権週間の終わりには、自分の実践を振り返って一言ずつ發表し、「にこにこ宣言」として児童玄関に一年間に掲示する。



(4) ランチルームでの給食



全校33人がランチルームで給食を食べている。給食時の放送をリクエストしたり、食事中のミニイベントとして誕生日の人が紹介されたりするアットホームな時間である。基本的に同学年でテーブルを囲んでいるが、団で集まったり、卒業前には6年生を囲んだりするアイデアを給食委員の児童が計画中である。

4 おわりに

豊かな自然、地域の人的環境に恵まれ、児童は大変素直に優しく育っている。誰とでも仲良く過ごすことができ、休み時間等には学年や性別に関係なくみんなで遊ぶ姿が見られている。特別活動を中心とした児童主体の活動を展開し続けてきていることが、児童同士の温かな関係性につながっているように思う。しかし、どこか遠慮がちで周囲に合わせながら「良い人」を演じている部分も感じられる。

今後大きな集団の中で様々な人間関係を築いていかなければならない子供たち。もっと先には多様な価値観、予測困難な社会をたくましく生きていくことも必要になる。相手のことを考えながらも自分の本心を伝え、いつも自分らしくいられる児童の育成をこれからも目指していきたい。

〈2〉 中学校

小規模校の強みを生かした生徒の主体性を育成する取組

高崎市立倉渕中学校長 高橋 祐樹

1 地域・学校の概要

本校のある高崎市倉渕町は、群馬県の西部、榛名山の西側に位置し、自然豊かな中山間地域にある。人口減少が進んでいるが、倉渕地域での有機農業が注目されており、就農のための移住者の受け入れを積極的に行っている。また、幕末の幕臣、小栗忠順ゆかりの地として知られ、令和9年のNHK大河ドラマ化に向け観光客の増加が見込まれている。

本校は、昭和36年に開校し、今年度で64年目を迎える全校生徒62名の県1級へき地校である。校区内に自然体験をしながら英語力を身に付ける山村留学施設「くらぶち英語村」があり、全国から集まった生徒13名が本校で学んでいる。英語村の生徒の存在は本校にとってよい風となっており、地元の生徒と英語村生徒が互いのよさを尊重しながら高め合っている。

また、本校は地域との結びつきが強く、学校林における森林体験学習、ビン缶古紙回収、道祖神の里めぐり解説ボランティア、ミヤマシジミの保護活動等、地域と連携・協働した取組を積極的に行っている。



2 生徒指導の方針

- 生徒に任せ、生徒が自己決定、対話交流、試行錯誤する場面を積極的に増やし、伴走者としての教師の適切な支援により生徒の主体性を育成する。
- 地域の人材や教育資源を積極的に活用した体験的な学習の場の設定により、生徒一人一人に活躍の場を与え、個々のよさや可能性を伸ばす。
- 発達支持的生徒指導の充実により、生徒同士、生徒と教師間に温かい人間関係を築き、生徒が安全にかつ安心して学べる学校風土を醸成する。
- 倉渕地域の幼小中連携を進め、15年間の継続性のある教育を進める。

3 実践の概要

本校では、生徒が将来、変化の激しい社会において力強く生きていけることを願い、上記生徒指導方針に基づき、生徒の主体性を育成する取組を以下のように行っている。

(1) 全校器楽「一人一楽器」

旧倉渕村が高崎市に合併する前年の平成17年に、将来倉渕地域を担う子どもたちが自信と誇りを持ち活躍するための一助としたいという思いから始まった取組である。

現在、生徒は外部講師によるレッスンを年12回と、生徒同士で行うパート練習を年15回行っている。練習の成果は文化祭や市連合音楽祭などで披露している。全校で1バンドを編成し、レッスンやパート練習を学年縦割りで行っている。各パートでは、上級生が中心となって練習をリードし、下級生は上級生に支えられて安心感と向上心をもって練習に励んでいる。一人一人が楽器と向き合うことで、主体性や忍耐力、協調性、自己肯定感など、非認知能力の育成につながっている。



(2) 地域探究学習「くらぶちタイム」

総合的な学習の時間では、「倉渚地域の活性化や未来」をテーマにした地域探究学習「くらぶちタイム」を行っている。

生徒一人一人が倉渚地域に関する課題を見つけ、調査や取材を行い、解決策を提案している。教育課程を編成する際、「くらぶちタイム」と学校や地域の行事を関連付けるようにし、校外学習等、生徒が学校外に出て学習するときなどに課題を発見したり解決のヒントを見つけたりできるようにしている。また、探究の見通しをもつ段階とまとめて表現する段階で、似た課題をもつ生徒で学年縦割りの班をつくり、学年を超えてアドバイスをし合っている。さらに、地域の方々や大学生をゲストティーチャーとして招いて中間相談会や発表会を設け、地域の活性化に実際に取り組んでいる方々との対話を通して探究を深めている。この一連の学習を通し、生徒は地域社会の担い手となる自覚を深めている。



(3) 自律的な学習の時間「SDLタイム」〔SDL：Self Directed Learning（自律的な学習）の略〕

学習面においても主体性を身に付けられるように、家庭学習において、生徒が自分に必要な学習内容と自分に合った学習方法を考えて実行する「自律的な学習（略称「SDL」）」に取り組んでいる。

週一回朝活動を自律的な学習の時間「SDLタイム」とし、生徒は過去1週間の家庭学習を振り返り、次週の計画を立てる。担任は生徒の計画づくりをきめ細かくサポートしている。そして、生徒はその計画にしたがって家庭学習を進める。

各学期の定期テストに向けた計画を作成する際は、学年縦割り班による生徒同士の対話を取り入れている。上級生がリードしながら計画づくりや学習方法について情報交換をし、各自の計画がよりよくなるようにしている。



(4) 地域行事への積極的参加

11月上旬の休日に行われる倉渚公民館主催の行事「道祖神の里めぐり」では、毎年多くの生徒が解説ボランティアとして参加している。

「道祖神の里めぐり」では、生徒たちが県内外から来た参加者のガイド役を担当する。約1ヶ月前にコースや解説内容を学習するリハーサルを行う。当日は参加者5～6名を生徒2～3名で案内している。生徒たちは参加者のペースに合わせて、なごやかに話をしながらコースを案内し、道祖神等文化財の解説をする。ガイド役という責任ある役目により、その場に応じて適切に判断する力やコミュニケーション力、自己肯定感を高める機会となっている。

ほかにも、地域の行事に積極的に参加し、中学生も地域を盛り上げる一員であるという意識を高めている。



4 おわりに

小規模校の強みは、地域との連携がしやすいこと、生徒一人一人に活躍の場を多く作れること、学年縦割りなど学習集団の工夫が容易であること、そして、生徒と教員の距離が近く一人一人に支援の手を入れられることである。今後もこれらの取組を継続して行い、故郷倉渚とそこで育った自分自身に自信と誇りを持ち、主体性を発揮しながら力強く生きていく生徒を育てていきたい。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



大河原小学校の授業の様子（6年 国語）



大河原小学校の授業の様子（1年 国語）

I 令和7年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
片品村立片品小学校長 小林 菊江

1 令和7年度へき地学校

令和7年度の県内へき地学校について、加盟校数は前年度より1校減の25校である。また、昨年度より児童生徒数は95名減の小学校1,055名、中学校584名、合計1,639名、教職員数は13名減の小学校185名、中学校133名、合計318名となった。県内全体に対してへき地学校の児童生徒の占める割合は、小学校で1.3%、中学校で1.3%である。県へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の特性や地域性を生かした教育活動を進め、今日的な課題に対応した教育を推進するための取組を行ってきた。

2 活動方針

(1) 研究主題

『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった、人間性豊かな子どもの育成』
～児童生徒一人一人が他者とながら、地域とともに「生きる力」を伸ばす
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
全国へき地教育研究連盟 第10次長期5カ年研究推進計画 令和6年度～令和10年度

(2) 活動方針

- ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行している。
- ② へき地教育研究大会を、県教育委員会及び県へき地教育振興会と毎年共同開催している。令和7年度は昭和村立大河原小学校を会場として開催した。
- ③ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力して、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に努めている。

3 研究・研修の概要

- (1) 第74回群馬県へき地教育研究大会 10月14日(火) Cブロック
昭和村立大河原小学校を会場に実施
- (2) 第74回全国へき地教育研究大会新潟大会
第21回関東甲信越へき地教育研究大会新潟大会
11月6日(木)・7日(金) 新潟県 参集型・オンライン型の同時開催+オンデマンド
- (3) 第51回全国へき地教育研究連盟研究協議会 12月4日(木)・5日(金) 東京都
- (4) 広報「県へき連」第93号発行
- (5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第74集発行

II 第74回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

片品村立片品小学校長 **小林 菊江**

1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

2 テーマ

『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった、人間性豊かな子どもの育成』
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす

学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～

全国へき地教育研究連盟 第10次長期5カ年研究推進計画 令和6年度～令和10年度

3 期 日 令和7年10月14日（火）

4 会 場 昭和村立大河原小学校

5 参加者 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 昭和村教育委員会
西部教育事務所 吾妻教育事務所 利根教育事務所 群馬県へき地校校長

6 日 程

8:45	9:15	9:35	10:35	11:15	12:00
受付	開会行事	全体会	研究協議	学校公開	情報交換

7 開会行事 あいさつ 群馬県教育委員会教育長 群馬県へき地教育振興会会長
昭和村教育委員会教育長 群馬県へき地教育研究連盟理事長

8 研究協議

小学校 (Bブロック)	【提案者】長野原町立浅間小学校 校長 土屋 学 【テーマ】主体的・対話的に学び、ふるさとに愛着をもった児童の育成 ～地域とともにある学校をめざして～
中学校 (Aブロック)	【提案者】上野村立上野中学校 校長 今井 啓介 【テーマ】自主的、創造的に学び行動する生徒の育成 ～エージェンシーを発揮できる環境づくりの工夫を通して～

9 学校公開

学年	教科	指導者	場所	学年	教科	指導者	場所
1年	国語	内海 真弓 教諭	1年教室	5年	国語	野村 千紘 教諭	5年教室
2年	国語	片野 絵理 教諭	2年教室	6年	国語	松井 悠向 教諭	6年教室
3年	国語	星野まりも 教諭	3・4年教室	さくら	算数	福田 香澄 教諭	さくら教室
4年	算数	阿部 貞治 教諭	学習室				

10 情報交換

〈2〉 提案要旨 《小学校班》

主体的・対話的に学び、ふるさとに愛着をもった児童の育成

～地域とともにある学校をめざして～

長野原町立浅間小学校長 土屋 学

1 学校の概要

長野原町は、群馬県の北西部に位置し、東は東吾妻町、高崎市、西は嬭恋村、北は草津町、中之条町、南は長野県軽井沢町に接している。町土の約 80 パーセント近くが山林原野であり、南北に細長い地形と、高低差が約 1000 メートルもあることから、多彩な自然があふれており、町の北部は、吾妻川に沿って集落が立ち並ぶ標高 510～830 メートルの山岳傾斜地帯で、山が近くまで迫り平らな土地はあまり多くない。一方南部は浅間山の北麓に広がる標高 900～1300 メートルの浅間高原地帯であり、平均気温は夏季が 28 度、冬季はマイナス 6 度ほどで、最低気温はマイナス 20 度まで下がることもある。なお、北軽井沢（長野県境付近）の一部地域は上信越高原国立公園に含まれている。浅間小学校は、令和 6 年度に、旧応桑小学校と旧北軽井沢小学校が統合して開校した、2 年目の新しい学校である。近年、多くの学校統合が行われているが浅間小学校は、どちらかの校舎を活用する統合ではなく、閉校となった長野原町立西中学校の校舎を改修して統合した。統合初年度には施設面での多くの課題が残っていたものの、現在は改修されている。

児童数は、67 名であり、特別支援学級を含めた学級数は 7 学級であり、常勤の教職員は 18 名の小規模校である。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

学校教育目標に「一人一人が元気に輝き、確かな学力と、豊かな心を持った、たくましい児童の育成」を掲げ、その実現に向けて教職員一丸となって日々の教育活動を実践している。

純朴で素直な児童が多く、だれとでも協力して作業に取り組める。また、学校統合後、落ち着いた態度で学校生活を送ることができている。しかし、与えられた課題や指示されたことはできるが、自分から主体的に取り組む姿勢が不十分であり、自分の意見や考えを持っていながら、それを積極的に伝え合う活動が十分にできていない。そこで、これらの課題を改善していくために、子どもたちの身近にある地域教材等を活用し、興味・関心を高め、地域の教育力を学校教育の中に積極的に取り入れる「地域と一体になった特色のある学校づくり」を目指すこととした。さらに、専門性のある外部講師を地域の方に依頼し、より専門的な知識の理解、他者との関わり方、多様な考え方や触れ合う学習機会を多く取り入れ、考えのキャッチボールができる環境づくりを行った。

(2) 実践の内容

① 学校運営協議会

長野原町は令和 6 年度より、町内 2 つのこども園、2 つの小学校、1 つの中学校に 1 つの学校運営協議会制度を導入した。八ッ場ダム湖等がある山岳傾斜地帯と浅間高原地帯の二つにそれぞれ 1 名の推進員を配置して「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指している。

② 地域の教育力をいかした調理実習

本校、学校区である北軽井沢地区は、多くの移住者がおり、移住者の中に特殊な資格を持っている方や優れた技術を持っている方がいる。そのような人材の確保を地域学校協働活動推進員を通して行い、ゲストティーチャーとして迎え、専門的な知識や技能を学ぶ機会を設けている。

③ 夏秋野菜栽培農家に学ぶ

浅間高原地帯の代表的な産業である、夏秋野菜（レタス、キャベツ、白菜）栽培について、地元の農家さんから直接お話を伺い地域の特産について理解を深めることができた。講師は忙しい中、地元の野菜のことや農家の課題や工夫について、パワーポイントでまとめ、子どもた

ちにわかりやすく説明してくれた。

④ 野生動物の危険性について

本校、学校区は全体の8割以上が森林と畑、牧草であるため、多くの野生動物が生息している。中でも農作物や人的な被害を及ぼす、害獣として扱われているツキノワグマ、カモシカ、ニホンジカ、イノシシがいる。そこで、軽井沢町に拠点を置く「ピッキオ」に講師依頼を行い、害獣から身を守る学習として、動物の特徴や特性を理解し、自分ができる対策を学んだ。

⑤ 牛の共進会から酪農を学ぶ

浅間高原地帯の代表的な産業である酪農について学ぶ学習として、県が主催する牛の共進会への見学を行った。見学に向けて、酪農家の方から酪農の1日の仕事の流れやコンピューターを導入した牛の管理について多くのことを学んだ。また、地元の獣医師を招聘して、牛の体のことや出産及び病気についても学ぶことができた。

⑥ 体験型人権学習から多くを学ぶ

人権週間期間中に、町にある社会福祉協議会、保健センター等から講師を招き、普段の生活では体験することのできない、車椅子体験、妊婦生活体験、視覚障害体験など実際に体験した。体験型での学びを通して、より自分事として捉えることができ、今後の生活に役立つ学びとなった。

⑦ 専門家に学ぶスケート学習

本校の特色の一つとして、統合以前から両校で伝統的に実施していたスケート教室がある。統合数年前までは、各校ともに学校敷地内にリンクが整備され、そこでスケート教室を実施していた。統合に伴い、現在では学校から20分程度の場所にある嬬恋高校のリンクを借りてスケート教室を行っている。スケート競技経験者の保護者や卒業生が中心となって指導を行うため、一流の技能を習得する機会がある。

3 まとめと今後の課題

- ・子どもたちは、多くの地域住民や保護者とのかかわりを通して、様々なものの考え方や多種多様な生活実態に直接的に接する機会を得ることができた。
 - ・子どもたちは、ゲストティーチャーとのかかわりの中で、言葉による会話や考えのキャッチボールの重要性がわかった。
 - ・子どもたちは、地域のことなど興味関心の高い学習をすることで、より主体的で対話的な学習をすることができた。
 - ・学習環境を工夫することの重要性を改めて実感することができた。
- ◇興味関心の高い学習内容から発展させ、考えのキャッチボールができる子どもの育成を図っていく。
- ◇学校が「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」「学校を核とした地域づくり」をより念頭に置いた学校教育を、地域と共に実現していく必要性を感じた。

《中学校班》

自主的、創造的に学び行動する生徒の育成

～エージェンシーを発揮できる環境づくりの工夫を通して～

上野村立上野中学校長 今井 啓介

1 学校の概要

本校は、昭和56年4月1日、旧上野東中学校と旧上野西中学校が統合し、開校42年目を迎えたへき地1級の中学校である。立地は、神流川右岸、日航機墜落事故の慰霊の園のすぐ下に位置している。生徒数は年々漸減の傾向にあるが、山村留学「かじかの里学園」が平成4年度に開園して以来、毎年、数名が学園から通学している。現在生徒数21名、内学園生は1名である。

本村の学校教育にける熱意は大きく、教育行政方針のもと、上野中学校だからできる特色ある教育の実現を目指して、村当局、学校運営協議会をはじめ、地域、PTA等から物心両面にわたる協力を惜しみなく得られるという恵まれた環境にある。

また、村の教育方針「子育て・子育ち」を受け、上野村を巣立っても村に心を寄せ続けられる生徒の育成を基本理念とし、地域の期待に応える教育の展開に努めている。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

本校の教育目標は、基本理念「上野村に誇りを持ち、ふるさと上野村に心を寄せ続けられる児童生徒の育成」のもと、「進んで学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」と設定している。また、県教育ビジョンの示すエージェンシーを発揮する自律した学習者の育成に繋げている。

今年度は、その実現に非認知能力が必要だと考え、「自律・共生・創造」の合い言葉を設定して、3カ年計画でエージェンシーを発揮できる環境作りの工夫を展開していくこととした。生徒は自分の力を信じながら、主体的に新しいことを創造する力を学校教育全体を通して高め、母校に誇りを持って卒業させ、村の教育理念を具現化することを目指して、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 生徒・職員の意識改革のための合い言葉の設定

□学校教育目標を支える合い言葉（非認知能力を高める3つの視点）

- ・自律（自律した学校生活、家庭生活を送る基礎を身に付けた姿で卒業する）
- ・共生（集団生活を通して、思いやりの心やコミュニケーション力を高める）
- ・創造（自分の考えを持ち、新しいことに自ら挑戦する経験を積む）

□生徒、保護者、職員への啓発活動

- ・学校HPの充実：日々の活動をタイムリーに掲載
- ・「学校だより」の発行：生徒の前向きな活動を保護者と地域へ紹介
- ・「上中PRIDE」の発行：職員の意識改革につながる情報共有



上野中だより

② 意識改革を生かすための組織づくり

□校内研修に3部会（学習、特活、生活）を新設。校務分掌表に明記

- ・全職員がどこかに所属。既存の活動見直しや新規取組を全体会で提案
- ・提案されたものはできるだけ実行する方向で検討
- ・令和9年度関東甲信越へき地教育研究大会での授業公開に向けて職員に説明

③ 現在までの具体的な実践

□各教科指導におけるエージェンシーを発揮できる環境の工夫

- ・計画訪問（1学期、全員授業）と一人一授業（2学期、全員授業）
- ・家庭学習の質の向上を目指し、生徒が月毎に個人目標を設定し振り返り、教員がヒントを提供

□「総合的な学習の時間」における地域素材の活用と校外学習をベースにした探究

- ・ 1年：村のSDGs～尾瀬と上野村の取組を比較して～
- ・ 2年：働くということ～上野村の事業所体験と東京施設見学を通して～
- ・ 3年：世界の中の上野村～海外研修による外国との比較～

□上野村体育祭参加種目の立案と練習

- ・ 村民に元気を届けるために全力で取り組む中学生の姿を見せる
- ・ 村民を巻き込んだ種目の創造

□「青樹祭」づくり

- ・ 生徒による主体的な演目検討（合唱と合奏）と練習
- ・ 総合的な学習の時間における発表会に向けた取組

□縦割り活動を生かした取組

- ・ パワーアップタイムによる基礎体力の維持向上
- ・ 校内球技大会（バレーボール）：共生
- ・ 上野村体育祭：自律、共生、創造
- ・ 校内駅伝大会：自律、共生

□生徒会活動（本部、図書、整美・JRC、広報・保健）における主体的な活動

- ・ 新刊購入、リクエスト曲におけるフォームとサブスクの活用

□人権集中学習旬間の取組

- ・ 人権サミットによる取組準備（スローガン決定）
- ・ 生徒会本部、各専門委員会による企画運営
- ・ まとめとしての人権集会（取組報告、成果と課題の話し合い）

□学校運営協議会

- ・ 次年度学校教育目標の検討を熟議で実施
- ・ 地域と学校のつながりの検討を熟議で実施

□おてんまくらぶ（地域学校協働本部）と連携

- ・ メンバー登録フォームの運用
- ・ 広報活動の充実（CM作成と放映、広報上野村への掲載）

□生徒総会に向けた生活向上案検討（各学年）

- ・ 生徒会主体の「上野中のきまり」見直し
- ・ 施設、設備に対する生徒からの要望提案
- ・ 自律を目指したチャイムの削減案作成

④ 今後の見通し

□年間振り返り

- ・ 生徒の成果と課題（生徒会各委員会、学年、部活動等）
- ・ 職員の成果と課題（CRT分析と次年度重点検討、次年度行事検討委員会等）
- ・ 保護者による学校評価結果の活用



2年東京施設訪問



3年日本と豪州を比較



体育祭「議員との綱引き対戦」



学運協「教育目標を考える」



上野中のきまり見直し

3 まとめと今後の課題

各教科指導における生徒がエージェンシーを発揮するための環境の工夫は、職員の意識の向上と共に実を結び、生徒が伸び伸び学習する姿に繋がってきた。保護者や地域からも、中学校や中学生に対する期待の声を至る所で聞くことができた。

例年実施している行事を見直すだけでも、生徒の自主性や創造性を伸ばす場面はたくさん作れた。行事に向かう意欲的な姿勢、行事後の感想には意欲の高まりと満足感が強くにじむようになった。

課題は、単元構想段階での教師の柔軟な思考、ICTの更なる活用とICTに拘りすぎない姿勢が教員側に必要であること、行事一つひとつに時間をかける必要があるため、行事の精選は今後も不可欠であることなどが挙げられている。

Ⅲ 第74回全国へき地教育研究大会・ 第21回関東甲信越へき地教育研究大会（新潟大会）

〈1〉概要報告

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

片品村立片品小学校長 **小林 菊江**

第74回全国へき地教育研究大会・第21回関東甲信越へき地教育研究大会が、文部科学省、全国へき地教育研究連盟、新潟県教育委員会等の主催により、参集型とオンライン型+オンデマンドによるハイブリッド大会として開催された。令和7年11月6日（木）、7日（金）の2日間にわたり長岡市立劇場を中心に開催された本大会は、さらに第44回新潟県へき地・複式教育研究大会としても位置づけられていた。群馬県からは、理事長等12名の校長と県教育委員会指導主事5名が参集型で参加した。

◇大会第1日（11月6日）「全体会・分散会」

「全体会」

- ・開会式 主催者あいさつ 文部科学省初等中等教育局視学官、新潟県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長
来賓祝辞 新潟県副知事、長岡市長
- ・基調報告 「第10次長期5か年研究推進計画2年次の推進」
全国へき地教育研究連盟研究部長
「全国へき地教育研究大会新潟大会 基調報告」 新潟大会実行委員長
- ・特別講演 「探究を中核とした教育課程の創造 ―学習指導要領の改訂を視野に入れて―」
文部科学省初等中等教育局主任視学官 田村 学
- ・次年度開催地あいさつ・大会旗引継 岐阜県
- ・アトラクション 太鼓芸能集団 鼓童

「分散会」

全国へき地研究連盟第10次長期5か年研究推進計画研究課題別に、課題1から課題6までの6分散会に分かれ、各2校の発表をもとに研究協議が行われた。

- ・第1分散会〈課題1〉特色ある教育課程
北海道根室市立おちいし義務教育学校、茨城県大子町立さほら小学校
- ・第2分散会〈課題2〉開かれた学校・学級経営
熊本県山都町立蘇陽南小学校、群馬県沼田市立利根中学校
- ・第3分散会〈課題3〉豊かな心を育む教育活動
大阪府高槻市立檉田小学校、栃木県那珂川町立馬頭東小学校
- ・第4分散会〈課題4〉個性を重視した指導計画
愛媛県宇和島市立遊子小学校、東京都八丈町立三原中学校
- ・第5分散会〈課題5〉個々に最適な学びを重視した指導方法
秋田県東成瀬村立東成瀬中学校、長野県上田市立菅平小・中学校
- ・第6分散会〈課題6〉高め合う学習過程
三重県南伊勢町立南島西小学校、山梨県丹波山村立丹波小学校

◇大会第2日（11月7日）「公開授業・分科会」

新潟県内6地区7校（A長岡市立東谷小学校、B小千谷市立東山小学校、C魚沼市立魚沼北中学校、D南魚沼市立五十沢小学校、E南魚沼市立中之島小学校、F十日町市立飛渡第一小学校、G津南町立上郷小学校）で授業が公開された。その後各会場にて、開会行事、各学校（各地域）の研究発表及び研究協議、閉会行事の各分科会が行われた。

〈2〉分散会発表者報告 第2分散会 第2発表

沼田市立利根中学校長 岡村 健一

I 研究主題

ふるさとのよさに気づき、主体的に活動する生徒の育成

～「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する」地域学校協働活動を通して～

II 研究計画

1 主題設定の理由

本校は群馬県北部にあり、町の80%以上を山林が占めている。町内には大小の河川が流れ河岸段丘を形成し、この河川沿いに集落が点在している。また、国天然記念物に指定されている吹割溪谷や泉質で有名な老神温泉、湖やキャンプ場など、豊かな自然や観光資源に恵まれ、四季を通してたくさんの観光客が訪れる町である。しかし人口減少に伴い、3回の統合を繰り返し、平成17年より現在に至っている。生徒数37名のへき地小規模校である。生徒は、小学校のときから自然学習や地域学習を積み重ね、地域を大切にしようとする心が育ってきている。現在も地域の方々に外部講師を依頼して、地域に根ざした教育活動を積極的に取り入れているが、これまでの取組を振り返ってみると、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う活動が少なかつたかもしれない。市支所の解体、デイサービスセンターの閉所等、地域コミュニティが縮小していく中で、豊かな学びや体験の機会を得て、子供たちが健やかな成長を図ることとあわせて、地域に愛着をもち、地域に貢献したいと考える人材を育成する取組が必要である。

2 研究仮説

学校経営の重点「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する」を体現する地域学校協働活動を通して、ふるさとのよさに気づき、誇りをもてるような学習活動を展開することで、生徒が主体的に自己のよさを発揮できるだろう。

3 研究内容

- (1) 学校運営協議会との連携
- (2) 地域おこし協力隊による全校講話
- (3) 総合的な学習の時間における、地域の方々との協働的な学び
- (4) 企画から運営まで生徒会を中心とした、生徒の主体的な活動
- (5) 地域イベントへの協力・参加

III 研究の実際

1 学校運営協議会との連携

令和5年度より「地域とともにある学校づくり」を目指したコミュニティ・スクールを設置。年3回の学校運営協議会を実施して目標やビジョンを共有し、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進め、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指している。地域の観光資源や農作業、伝統芸能等への参加など、生徒にとって興味深く、地域の魅力に気付けるように、情報提供や体験活動の補助など広く関わってもらっている。

2 地域おこし協力隊による全校講話

地域おこし協力隊員を招聘し、講話及び意見交換を行った。この地に移住し、慣れない生活の中で地域協力活動に従事しようと思った理由、仕事のやりがいや町の課題・魅力など、地域外から来た人ならではの視点での講話から、改めて町のよさや課題を捉える機会となった。

3 総合的な学習の時間における、地域の方々との協働的な学び

りんご農家に学ぶ（第1学年）、観光業に学ぶ（第2学年）、林業に学ぶ（第3学年）をテーマとして、地域の大人との交流を通して、利根町でしか学べない貴重な体験を行い、楽しく探究しながら思いを形として反映させる学習に取り組んでいる。



1年生「りんご農家に学ぶ」

4 企画から運営まで生徒会を中心とした、生徒の主体的な活動

(1) 生徒会旗作成

生徒会スローガン R6「繋～繋げみんなの絆、広がれ私たちの輪、永遠に続け利根中の未来～」、R7「和～あいさつで繋がる和、思いやりで繋がる和～」を掲げて、士気を高めながら活動の充実を目指している。

(2) 生徒会新聞発行

生徒会から地域の方々へ町内の回覧板を利用して、学校と地域のつながりを大切にしていきたいというメッセージを発信している。

(3) 能登被災地学校へ応援メッセージ

能登被災地での豪雨災害の記事に際して、生徒の発案により交流のある石川県東陽中学校へ応援メッセージを送付した。

(4) 体育祭企画運営

地域とのつながりを意識した体育祭の実施に向けて、保護者や地域の方々と一緒に競技種目を多く取り入れ、休憩時間に地域の方々へ「カキ氷」を生徒が振る舞い、地域の方々との交流を図った。また、生徒会本部から保護者や地域の方々が集まるこの機会に、「ふるさとを愛し、夢や誇りがもてる利根中学校」と染め抜いたのぼり旗を掲げて自分たちの取組を知ってもらいたいとの声が上がったので、沿道にのぼり旗を立てた。

(5) クリーン作戦

自分たちが地域にできることを実践したいという生徒の声から、町の観光名所である吹割の滝周辺の清掃活動を全校生徒で行った。



滝周辺の清掃

5 地域イベントへの協力・参加

(1) びっくりひな飾りの準備<第1・2学年>

約7,000体以上のひな人形が並ぶ「老神温泉びっくりひな飾り」の開催を前に観光会館に行って飾り付けを手伝った。観光協会の方から「高齢化が進んで大変なので中学生が協力してくれるとありがたい。」と感謝されている。生徒が課題意識をもって参加できるよう、担当職員が打ち合わせを綿密に行い、地域と連携・協働した活動になっている。



7000体のひな飾り

(2) 地域祭りへの参加<全学年>

5月には地元の老神温泉大蛇祭りが行われる。12年に1回巡ってくる巳年の祭りでは、ギネスに載っている108mの大蛇神輿が練り歩く。令和7年度は巳年であることから、全校生徒及び教職員で参加した。生徒は、ギネス世界記録に認定された「大蛇神輿」の担ぎ手として、誇りをもって参加した。



全校で大蛇神輿渡御に参加

IV 研究の成果と課題

1 成果

地域と学校との協働活動を通して、地域の方々が学校を大切に思い、地域全体で子供たちを温かく見守っていただいていることが実感できる。そのような環境の中で、生徒が地域課題を自分事として捉え、主体的な活動が少しずつ見られるようになってきた。自分の役割を自覚して達成感や自己有用感を高めている生徒も少なくない。また、全国学テの質問紙において「将来の夢がある」「人の役に立ちたい」の項目で、高い数値を示した。地域課題に目を向けて真剣に取り組んだことにより、地域に愛着を感じ、将来の夢や希望をもって、地域や社会に貢献しようとする思いが育ってきた結果だと考える。

2 課題

利根町では、生活の利便性の低下、人口減少・流出や魅力的な働き場の不足など、大きな課題が山積している。学校と地域で意図的・計画的に連携・協働しながら、子供たちの学びや成長につながる実践を継続し、地域を愛し、地域の担い手としての自覚を育てていきたい。

〈3〉分科会報告

A分科会

自ら学び、思いや考えをつなぐ東谷っ子の育成

～地域の教育資源や体験活動を生かした授業づくりを通して～

片品村立片品小学校長 小林 菊江

1 会場校 長岡市立東谷小学校（学級数 5 児童数 50 名 職員数 9 名）

2 地域・学校の概要

東谷小学校は、長岡市の北東に位置する栃尾地域に所在する。昭和 43 年に、旧東谷小学校と栃堀小学校の統合により新設され、その後平成 9 年には栗山沢小学校、平成 13 年には入東小学校と統合し、令和 5 年に創立 55 周年を迎えた。学区には刈谷田川と来伝川が流れ、校舎の周りには田畑が広がり、遠くには守門岳を望む、自然豊かな環境にある。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 地域との関わりや教科等を関連させた授業づくり
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

(2) 公開授業（参集型、オンライン配信の同時開催）

- 3・4年複式 総合的な学習の時間（守ろう！飛ばそう！東谷のホタル～カラ・ミラホタル隊～）
- 全校 造形活動（伝えよう東谷の宝～加治聖哉さんとコラボレーション～）

4 所感

ふるさと学習を通して郷土愛や地域貢献意識を育み、そこで得た「知識」を、ふるさとの課題を解決するための具体的な行動計画を立て「知恵」に昇華することで、児童が自己の在り方や生き方を考えようとしていくことを目指す取組が見られた。どちらの公開授業でも、対話的で協働的な学びが自然に展開されていた。また、推進されている AAR（予測→実行→振り返り）のサイクルが効果的に展開されていると感じた。

B分科会

学びをつくる子どもの育成

～「人・もの・こと」と関わる教育活動を通して～

神流町立中里中学校長 茂木 宏隆

1 会場校 小千谷市立東山小学校（学級数 4 児童数 14 名 職員数 8 名）

2 地域・学校の概要

小千谷市東山地区は、中越大震災の影響で世帯数が半減し、児童生徒数も減り、ここ数年は全校児童 15 名で推移しており、平成 29 年度から完全複式となった。養鯉業や国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」等の伝統を生かした特色ある教育活動を実施している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 探究的な学習過程の工夫
- ふるさと夢づくり教育の充実

(2) 公開授業（参集型、オンライン配信の同時開催）

生活科、総合的な学習の時間

全校ふるさと学習「I LOVE 東山大作戦～世界中からこい（来い）こい（鯉）～」

4 所感

総合的な学習の時間で、国指定の重要無形民俗文化財である「牛の角突き」に関する学習を中核に据え、地域住民と関わり、新たな地域の魅力に気づいたり、地域に対する愛着を深めたりすることにつながっている。子どもたちにとって身近な「人・もの・こと」から題材を設定することで、自分事として主体的に探究し、地域をよりよく知ってもらうために何をすべきかを考える「学び」を、子どもたちがつづけている姿が素晴らしかった。教員を含め、地域への愛情を強く感じた。

C分科会

自他のよさを認め、共に学び合い、人間性豊かな生徒の育成

～地域芸能の伝承、地域貢献学習をとおして～

上野村立上野中学校長 今井 啓介

1 会場校 魚沼市立魚沼北中学校（学級数 3 生徒数 42 名 職員数 11 名）

2 地域・学校の概要

全国有数の米どころ、豪雪地帯である新潟県魚沼市北部に位置する。令和元年度に2中学校が合併し開校。初年度から学校に協力的な地域に支えられ、学校と地域の連携により教育活動と教育環境の整備を推進している。総合的な学習の時間を中心に、地域芸能の伝承と地域に貢献できる人材育成など、特色ある教育活動を展開している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 地域素材を生かした特色ある教育活動の推進（地域学習、地域貢献活動）
- 基盤となる「学級づくり」と「対話」に重点をおいた「深い学び」を促す授業づくり

(2) 公開授業（参集、オンライン配信による同時公開）

- ①全校理科「異学年学習による自由進度学習」
- ②全校総合的な学習の時間「伝統芸能発表」（三味線、郷土に伝わる舞踊、北中ソーラン）

4 所感

生徒同士の関係性の固定化、自ら課題を見つけて主体的に行動することに課題を見出し、異学年集団混在の自由進度学習に挑戦していることは、新しい学力観の具現化と学校課題の解決を目指す上で、大きな挑戦だと感じた。伝統芸能発表には、地域の指導者も招かれ、演目紹介でインタビューを受けるなど、地域と共に授業づくりに取り組んでいることを実感した。伝統芸能の伝承を学校が担うことで、生徒も教員も地域への愛着を深めることにつながっている。

D分科会

「分かる」「できる」を実感し、進んで学ぶ子どもの育成

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 会場校 南魚沼市立五十沢小学校（学級数 10 児童数 168 名 職員数 15 名）

2 地域・学校の概要

南魚沼市の三国川ダムから魚野川へと続く東西に長い東部山間地域を学区としており、約7割の児童がスクールバスで通学している。平成23年4月に五十沢小学校と西五十沢小学校が統合し現在にいたる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 主体的に課題と関わる場の工夫
- 一人一人に見通しをもたせる場の設定
- 成長を実感する振り返り

(2) 公開授業（参集、オンライン配信による同時公開）

- 3年 理科【オンラインと併用】
- 5年 総合的な学習の時間【オンラインと併用】
- 2年1組 算数
- 2年2組 国語
- 4年 国語
- 6年 算数

4 所感

「分かった」「できた」を生み出す授業展開の工夫が、どの学年でも見られた。特に2年生の算数では、児童が電子黒板の扱いに慣れており、何人もの児童が自分の考えをとて分かりやすくクラスみんなに伝えていた。できた自分の考えをみんなに伝えたい、友達のを聞きたいという子供の思いが伝わってきた。振り返りについては、全学年で視点が統一されており、学年が上がっても書く内容に迷いがなく、記述内容の質も上がっていくと感じた。

E分科会

つながる学びを生み出す子

～子どもの表現活動の充実～

草津町立草津小学校長 田中 充弘

1 会場校 南魚沼市立中之島小学校（学級数9 児童数133名 職員数16名）

2 地域・学校の概要

中之島小学校が所在する南魚沼市は国内有数の豪雪地帯であるとともに、「南魚沼産コシヒカリ」を育む米どころでもある。教育課程特例校として、低学年から豊かな国際感覚やコミュニケーション能力等の育成を目指して国際科の授業に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

児童が様々な対象（人・もの・こと）とつながりながらその子らしく学びを發揮する姿を「つながる学び」と名付け、以下の手立てを中核とした授業デザインを構想・展開。

○「問い」を立ち上げ、学ぶ意欲、学ぶ楽しさを生み出すための手立て

○「各教科等の見方・考え方」を働かせるための手立て

○ つながる学びを生み出す表現活動の設定と手立て

(2) 公開授業（参集型、オンライン配信※による同時公開）

6年国際科※、5年総合的な学習の時間、4年国語科※、2年国際科

4 所感

地域の「人・もの・こと」を生かした教育課程の編成がなされており、授業の導入においては、子供たちが「やってみたい」などワクワクする課題設定がなされていた。どの児童も生き生きと学習に取り組む姿が随所に見られたことが印象的であった。

F分科会

考えを伝え合い、学びを深める子どもの育成

～多様な学びの場の工夫～

中之条町立六合小学校長 奥木 芳明

1 会場校 十日町市立飛渡第一小学校（学級数2 児童数9名 職員数5名）

2 地域・学校の概要

十日町市東部山間部に位置する。市中心部から車で20分ほどの地区にあり、へき地1級である。周囲には飛渡川と美しいブナ林が広がり、冬の積雪は2mに達する。ふるさとへの誇りや生きる力を育むことを目的に「ふるさと環境学習」を教育活動の中心に位置付けている。平成22年、県内で初めてユネスコスクールに認定された。コミュニティ・スクール組織を生かし、地域の自然や人材・組織と協働し教育活動の充実を図っている。地域住民の学校教育への関心が高く協力的であり、学校支援組織も充実している。一方で、学区は人口減少の傾向にあり、児童数も減少している。少子高齢化が進んでいるが、県外からの移住家庭と定住家庭が協力し合って地域活性化を図っている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

○少人数のよさを生かした多様な学びの場づくり

○対話的活動の充実

○深い学びを獲得するためのICT活用

(2) 公開授業（参集型、オンライン配信による同時公開）

① 1校時 3・4年複式 社会

② 2校時 全校 総合 ふるさと環境学習

4 所感

飛渡第一小学校では、極小規模である強みを生かし、弱みを補う活動に力を入れて、教育活動を展開していた。特に、公開授業の「ふるさと環境学習」を全校で取り組み、外部人材の積極的な活用を行い、地域と学校の協働している姿が印象的であった。本校とも人数が近いこと、今後の本校の教育活動に参考になる分科会であった。

G分科会

少人数学級における学びを深める学習指導の改善と充実

嬭恋村立東部小学校長 大竹 一夫

1 会場校 津南町立上郷小学校（学級数 4 児童数 24 名 職員数 14 名）

2 地域・学校の概要

新潟県の最南端に位置し、信濃川とその支流によって雄大な河岸段丘が形成されている。年間の気温差が大きく、冬には日本有数の豪雪地帯となる。上郷地区は長野県栄村と隣接しており、古くから県境を越えた交流が行われてきた。地域には大井平和紙の伝統が受け継がれており、児童たちは保存会の指導を受けながら、この和紙で手漉きの卒業証書を自ら制作している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

学校教育目標「進んで学び 力合わせてやりぬく 元気な子」を具現化するために、少人数学級における話し合い活動の充実と工夫、学びを深める手立ての工夫に重点的に取り組む。

(2) 公開授業（参集型、オンライン配信による同時公開）

2年：算数科 3年：社会科及び5・6年：総合的な学習の時間【オンラインとの併用】

4 所感

どの授業もICTや生成AIを効果的に活用し、児童一人ひとりの考えを尊重した学びが展開されていた。ロイロノートやCanvaで意見を可視化し、生成AIで考えを整理するなど、デジタルツールを自然に取り入れた工夫が随所に見られた。小規模校ならではの温かい雰囲気の中、子供たちが話し合い活動を通して主体的に学び合う姿が印象的であった。

資料

I 令和7年度へき地学校資料

<1>級別へき地学校数

令和7.5.1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A計 分校	B県全体 分校	A/B
小学校	3	3	2	6	1	0	0	15 0	292 2	5.1%
中学校	2	1	3	4	0	0	0	10 0	148 1	6.8%
義務教育 学校	0	0	0	0	0	0	0	0 0	5 0	0.0%
中等教育 学校	0	0	0	0	0	0	0	0 0	1 0	0.0%
計	5	4	5	10	1	0	0	25 0	446 3	5.6%

<2>級別へき地本校分校別学校数

()内は、内数で休校中の学校である。

令和7.5.1現在

級別 校種別		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
小学校	本校	3	3	2	6	1	0	0	15	15
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	本校	2	1	3	4	0	0	0	10	10
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<3>級別へき地学校児童生徒数

令和7.5.1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	A/B
小学校	305	450	50	245	5	0	0	1,055	83,890	1.3%
中学校	108	89	271	116	0	0	0	584	44,507	1.3%
義務教育 学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1,068	0.0%
中等教育 学校	0	0	0	0	0	0	0	0	754	0.0%
計	413	539	321	361	5	0	0	1,639	130,219	1.3%

<4>郡市町村別へき地学校数一覧

()内は、内数で休校中の学校 上段：小学校 下段：中学校

令和7. 5. 1現在

No.	郡市	町村	学校数			内 訳							合計	
			本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
						4	3	2	1	準	特			計
1	高 崎		2		2				1	1		2		2
			1		1				1			1		1
2	多野	上野	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
3	多野	神流	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
計			4		4			3	1		4		4	
			3		3			3			3		3	
4		中之条	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
5		長野原	1		1				1			1		1
												0		0
6	吾妻	嬭恋	2		2						1	1	1	2
			1		1				1		1	1	1	1
7	吾妻	草津	1		1						1	1		1
			1		1						1	1		1
8	吾妻	高山	1		1							0	1	1
			1		1							0	1	1
9	吾妻	東吾妻	1		1				1			1		1
												0		0
計			7		7	0	0	0	3	0	2	5	2	7
			4		4	0	0	0	1	1	1	3	1	4
10	沼 田		1		1					1		1		1
			2		2					1		1	1	2
11		片品	1		1						1	1		1
			1		1					1		1		1
12	利根	昭和	1		1							0	1	1
												0		0
13	利根	みなかみ	1		1			1				1		1
												0		0
計			4	0	4	0	0	1	0	1	1	3	1	4
			3	0	3	0	0	0	0	2	0	2	1	3
総計	小 計		15	0	15	0	0	1	6	2	3	12	3	15
	合 計		10	0	10	0	0	0	4	3	1	8	2	10
			25		25	0	0	1	10	5	4	20	5	25

<5>複式学級の郡市別、編成別、学級一覧（小学校のみ）

令和7. 5. 1現在

	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
高崎市	1	1	0	0	0	0	0	2	2
多野郡	1	0	1	0	1	0	0	3	1
吾妻郡	0	0	2	0	1	0	0	3	2
沼田市	0	1	0	1	0	0	0	2	1
利根郡	1	0	2	0	0	0	0	3	2
計	3	2	5	1	2	0	0	13	8

〈6〉級別へき地学校児童・生徒数の推移 (小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0	△	10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0	△	10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0	△	9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0	△	9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0	△	9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0	△	9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0	△	9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0	△	9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0	△	8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0	△	8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0	△	7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0	△	7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0	△	7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0	△	7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7	△	6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5	△	6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9	△	5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8	△	5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8	△	5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3	△	5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0	△	5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0	△	4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0	△	4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0	△	4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0	△	4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0	△	3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0	△	3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0	△	3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0	△	3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0	△	3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0	△	2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0	△	2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0	△	2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0	△	2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0	△	2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0	△	2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0	△	2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0	△	1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0	△	1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0	△	1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0	△	1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0	△	1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0	△	1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6
令3	511	233	532	129	167	293	199	106	47	38	0	0	△	1,456	799	92,471	49,125	1.6	1.6
令4	404	154	499	107	88	316	290	178	5	0	0	0	△	1,286	755	90,252	48,214	1.4	1.6
令5	364	114	487	103	85	303	277	110	5	0	0	0	△	1,218	630	88,146	47,170	1.4	1.3
令6	338	108	466	93	50	284	278	112	5	0	0	0	△	1,137	597	86,004	45,820	1.3	1.3
令7	305	108	450	89	50	271	245	116	5	0	0	0	△	1,055	584	83,890	44,507	1.3	1.3

II 令和7年度 群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野已喜雄 (沼田)

副会長 坂本 英夫 (多野：神流町長)

梅澤 志洋 (利根：片品村長)

山口 廣 (令和7年6月26日～令和8年2月6日)

地田 功一 (令和8年2月7日～)

(吾妻：吾妻郡町村教育委員会 連絡協議会会長)

理 事 小林 良江 (高崎：高崎市教育長)

茂木 要一 (多野：神流町教育長 職務代理者)

山口 廣 (令和7年6月26日～令和8年2月6日) 地田 功一 (令和8年2月7日～)

(吾妻：吾妻郡町村教育委員会 連絡協議会会長)

星野已喜雄 (沼田)

梅澤 志洋 (利根：片品村長)

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		小 林 良 江 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	飯 出 哲 夫 (教育長)
	神 流 町	茂 木 要 一 (教育長職務代理者)
吾 妻 郡	中之条町	山 口 暁 夫 (教育長)
	長 野 原 町	小 林 敦 子 (教育長)
	孺 恋 村	地 田 功 一 (教育長)
	草 津 町	富 澤 勝 一 (教育長)
	高 山 村	山 口 廣 (教育長) (令和7年6月26日～令和8年2月6日)
	東 吾 妻 町	茂 木 一 弘 (教育長)
沼 田 市		竹 之 内 篤 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富 (教育長)
	昭 和 村	小 野 和 好 (教育長)
	みなかみ町	田 村 義 和 (教育長)

監 事 富澤 勝一 (吾妻：草津町教育長) 萩原 明富 (利根：片品村教育長)

令和7年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 神戸 恵美子 ・ 高橋 博愛 ・ 青木 政明

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	藤 原 純 平	大 島 恵 依 子 (西部教育事務所)
上 野 村	上野村教育委員会	宮 澤 茂 寿	
神 流 町	神流町教育委員会	黒 澤 春 菜	
中之条町	中之条町教育委員会	湯 浅 成 夫	須 藤 宣 之 (吾妻教育事務所)
長 野 原 町	長野原町教育委員会	関 幸 子	
孺 恋 村	孺恋村教育委員会	竹 浏 康 幸	
草 津 町	草津町教育委員会	山 口 智 栄	
高 山 村	高山村教育委員会	座 木 光 代	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	桑 原 菜 緒	栞 原 和 馬 (利根教育事務所)
沼 田 市	沼田市教育委員会	富 澤 雅 士	
片 品 村	片品村教育委員会	狩 野 恭 平	
昭 和 村	昭和村教育委員会	小 池 葵	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	久 保 野 雅 之	

Ⅲ 令和7年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 高橋 祐樹 (高崎：高崎市立倉渕中学校)
- ・副理事長 奥木 芳明 (吾妻：中之条町立六合小学校)
- 松原 孝志 (利根：みなかみ町立藤原小学校)
- ・常任理事 大竹 一夫 (吾妻：嬭恋村立東部小学校)
- 小林 菊江 (利根：片品村立片品小学校)
- ・事務局長 茂木 宏隆 (多野：神流町立中里中学校)
- ・会計部長 松井 勝 (高崎：高崎市立宮沢小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地(電話番号)	県へき役職
A 高崎 多野	高橋 祐樹	高崎市立倉渕中学校	高崎市倉渕町岩氷215-1 (027-378-3214)	常任理事 理事長
	茂木 宏隆	神流町立中里中学校	多野郡神流町神ヶ原422 (0274-58-2517)	常任理事 事務局長
	山田真由美	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場84-2 (0274-57-2320)	
	松井 勝	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	常任理事 会計部長
B 吾妻	奥木 芳明	中之条町立六合小学校	吾妻郡中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	常任理事 副理事長
	大竹 一夫	嬭恋村立東部小学校	吾妻郡嬭恋村三原679-3 (0279-97-3026)	常任理事 図書新聞部長
	土屋 学	長野原町立浅間小学校	吾妻郡長野原町応桑1543-310 (0279-85-2249)	
	田中 充弘	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	監査
C 利根 沼田 高山 東吾妻	松原 孝志	みなかみ町立藤原小学校	利根郡みなかみ町藤原3491 (0278-75-2103)	常任理事 副理事長
	小林 菊江	片品村立片品小学校	利根郡片品村鎌田3952 (0278-58-3126)	常任理事 研究部長
	井口智恵子	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 小0278-53-2919 中0278-53-2698	
	浅井 広之	高山村立高山小学校	吾妻郡高山村中山2792-1 (0279-63-2005)	監査
板木 実務 担当	井口智恵子	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 小0278-53-2919 中0278-53-2698	

Ⅳ 令和7年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター 名	氏名	勤務先	勤務校所在地(電話番号)
吾妻	山本 徳幸	吾妻教育事務所	〒377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条町664 (0279-75-3370)
利根	中野 敬造	利根教育事務所	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 令和7年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	いわさき やすし 岩崎 靖志 高崎市教育委員会推薦	令和7年3月に高崎市立久留馬小学校教諭として退職するまで、高崎市内のへき地学校に29年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	たなか まさひろ 田中 真浩 中之条町教育委員会推薦	令和7年3月に中之条町立六合中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	やまの きちこ 山野 祥子 嬭恋村教育委員会推薦	令和7年3月に嬭恋村立西部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	くろいわ りょういち 黒岩 良一 嬭恋村教育委員会推薦	令和7年3月に嬭恋村立嬭恋中学校教諭として退職するまで、嬭恋村内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	やまだ ひろあき 山田 浩昭 草津町教育委員会推薦	令和7年3月に草津町立草津小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	ふくだ あゆこ 福田 亜由子 高山村教育委員会推薦	令和7年3月に高山村立高山中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	せきもと かずひで 関本 和秀 高山村教育委員会推薦	令和7年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	たかはし はるじ 高橋 春寿 高山村教育委員会推薦	令和7年3月に高山村立高山中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	やまぎき ふじお 山崎 不二男 東吾妻町教育委員会推薦	令和7年3月に東吾妻町立太田小学校事務職員として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	たかはし あきこ 高橋 秋子 東吾妻町教育委員会推薦	令和7年3月に東吾妻町立岩島小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	すとう よしあき 須藤 義昭 東吾妻町教育委員会推薦	令和7年3月に東吾妻町立太田小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第74集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に発行を断念せざるを得ませんでした。しかしながら、令和3年度より再び刊行し、令和6年度よりデータ配信による発刊となり、今年度もデータ配信により第74集を発刊することができました。

第74回群馬県へき地教育研究大会が利根郡昭和村立大河原小学校を会場に開催されました。今年度も参集による開催で、研究協議、学校公開、情報交換という半日の構成で実施しました。研究協議では、浅間小学校・上野中学校の実践が紹介され、へき地における学校経営について学び合うことができました。学校公開の授業参観では、少人数での学習の在り方について考えを深める貴重な機会となりました。情報交換の場面では、令和9年度関ブロ群馬大会の概略・発表校、事前準備の進捗状況等の確認・協議を行いました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少や統廃合の傾向が止まず、へき地校の状況は厳しさを増すばかりですが、みんなで力を合わせ、へき地教育を支えていければと考えます。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等のご協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第74集が、今後のへき地教育推進の資料として、より多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下のとおりです。

群馬県教育委員会事務局

佐野 美幸（義務教育課長）

丸山 剛史（義務教育課 人権・キャリア教育推進係長）

神戸恵美子（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事）

高橋 博愛（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事・板木担当）

群馬県へき地教育研究連盟

高橋 祐樹（県へき連 常任理事・理事長）

奥木 芳明（県へき連 常任理事・副理事長）

松原 孝志（県へき連 常任理事・副理事長）

茂木 宏隆（県へき連 常任理事・事務局長・調査部長）

松井 勝（県へき連 常任理事・会計部長・図書新聞部）

大竹 一夫（県へき連 常任理事・図書新聞部長）

小林 菊江（県へき連 常任理事・研究部長）

田中 充弘（県へき連 理 事 ・ 調査部 ・ 監査）

山田真由美（県へき連 理 事 ・ 研究部）

土屋 学（県へき連 理 事 ・ 研究部 ・ 広報担当）

浅井 広之（県へき連 理 事 ・ 図書新聞部 ・ 監査）

井口智恵子（県へき連 理 事 ・ 調査部 ・ 板木担当）